

木曽生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局木曽森林管理署、南木曽支署、東濃森林管理署
所在地	長野県木曽郡王滝村、上松町、大桑村、岐阜県中津川市
面積	10392.19 ha（保存地区 3266.53ha 保全利用地区 7125.66ha）
設定年	平成28年4月1日設定
保護林の概要 （設定目的）	天然のヒノキ、サワラ等を含む温帯性針葉樹林は、世界的に希少といわれている。 現存する温帯性針葉樹林をまとまりと連続性をもって、遺伝資源及び森林生態系を保存するとともに、人工林から天然林への誘導を通じて温帯性針葉樹林の復元を図ることを目的とする。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和6年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（立木調査・植生調査）として調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測や定点写真の撮影、下層植生の種組成の概要を把握した。 森林概況調査として、調査ルートを設定し、林分の発達段階や病虫害、気象害、鳥獣害の被害状況等を把握した。
結果概要	確認できた影響　〔ア（野生鳥獣）〕 良好な天然の針葉樹林が維持されている。 森林の整備・管理計画が作成されている。 森林の階層構造が維持されており、特筆すべき被害状況等も確認されなかった。 聞き取り調査でニホンジカの目撃情報があり、森林概況調査でニホンジカの可能性があるフィールドサインが確認されたことから、巡視時に継続的な確認が求められる。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

南木曽岳生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・木曽森林管理署南木曽支署
所在地	長野県木曽郡南木曽町
面積	672.87 ha
設定年	平成19年4月1日設定・平成29年4月1日当該保護林へ移行
保護林の概要 (設定目的)	南木曽岳山頂部周辺には木曽ヒノキ、コウヤマキ、クロベ等の天然木が生育し、その林床にキョウマルシャクナゲ等が生育するなど、深層風化花崗岩からなる急峻な山岳地形に形成された木曽谷南部の典型的な生物群集を有する森林の保護・管理を図ることを目的とする。 なお、当該保護林は比較的同質な天然林であることから、地帯区分の設定は行わない。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和6年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（立木調査・植生調査）として調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測や定点写真の撮影、下層植生の種組成の概要を把握した。 森林概況調査として、調査ルートを設定し、林分の発達段階や病虫害、気象害、鳥獣害の被害状況等を把握した。
結果概要	確認できた影響　〔 ア（野生鳥獣） 〕 多様な樹種が混生する良好な天然林が維持されている。 ニホンジカによる森林被害の拡大が懸念されるため、生息動向に注意が必要である。 巡視等による継続的なモニタリングが求められる。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

恵那山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・東濃森林管理署
所在地	岐阜県中津川市
面積	492.21 ha
設定年	平成5年4月1日設定・平成30年4月1日当該保護林へ移行
保護林の概要 (設定目的)	恵那山上部には亜高山帯針葉樹であるシラビソ(シラベ)等の群落があり、一部林床にオサバグサが生育している。このオサバグサ群落は岐阜県の分布の南限にあたり貴重であるため、山地帯上部から亜高山帯まで一体的な保護を図ることを目的とする。 なお、当該保護林は均質な天然林であることから地帯区分の設定は行わない。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和6年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（立木調査・植生調査）として調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測や定点写真の撮影、下層植生の種組成の概要を把握した。 森林概況調査として、調査ルートを設定し、林分の発達段階や病虫害、気象害、鳥獣害の被害状況等を把握した。
結果概要	確認できた影響　〔ア（野生鳥獣）〕 シラビソ等の森林の更新状況に注意が必要と考えられた。 ニホンジカ被害において、剥皮率の増加が確認され、ブラウジングラインの形成が進む等の森林被害の顕在化が確認されたことから、東濃森林管理署が継続調査を実施しているように、生息動向により一層の注意が必要である。 5年ごとのモニタリング調査とともに、巡視の強化が望ましい。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。